

— 新たな輝きを与えたい —

## 伝統の着物を『洋服』に

(有)山王プロジェクト 代表取締役 後藤弘子さん



着物や反物を、洋服や小物に仕立て直す「着物リメイク」。過去に何度かブームを巻き起こしてきましたが、昨今のインバウンドの高まりを背景に、人気が再燃しているといえます。今月は、岐阜市で着物リメイクデザイナーとして活動する後藤弘子さんにお話を伺いました。

取材当日、後藤さんはご自身がデザインした着物リメイクのチュニックに身を包み、出迎えてくださいました。シックな黒地に、胸元から裾に広がる鮮やかなオレンジ色の花柄。柄が映えるよう裁断位置・柄合わせには相当気を使うそうです。

「着物の柄は大抵裾にあしらわれていますが、私は上半身に柄を入れるんです。テールに着いたら、ただの真っ黒な服にしか見えないなんて、せっかくの着物の柄が生きてない。どこから見てもきれいなデザインが目に入る、私のこだわりです」

### 着物生地 の 素晴らしさを知る

20代の頃は岐阜市のフォーマルウェアメーカーに勤め、ファッション誌の草分けである「装苑」に「地元で輝くデザイナー」として紹介されたこともある後藤さん。その実力を買われ若くして独立すると、フリーの企画デザイン・ボタンナーとしてひっぱりだこに。

「当時の岐阜のアパレルは活気があって、色んな経験をさせていただきました」

仕事柄、さまざまな繊維生地に触れていた後藤さんが一番好きだったのがシルク。滑らかな手触り、豊かな光沢に惹かれ、中でもイタリア製品が最高品質と考えていました。ところがある時、著名な外国人ミュージシャンが、わざわざ日本まで絹織物を買付けに来ていると耳にします。

「え？ そうなの？ と驚きました。そこで着物生地をあらためて見ると、織物としての美しさ、品質の高さに気付かされました」

着物生地 の 虜 になつた後藤さんでしたが、当時は日常で着物を着る機会が減っていった時代。「せっかくの良いものをしまひこまず、気軽に楽しんでほしい」と、ファッション雑誌に手持ちの着物のオーダーリメイクを請け負う広告を出したところ、予想を上回る反響が。これをきっかけにあちこちから声がかかり、百貨店の催事やギャラリーで実績を積みました。



真が送られてきます。

「私が作った服で生き生きとされているのが伝わってきて嬉しい。やりがいを感じます」

なかには思ってもみなかった反応もありました。「化繊かぶれをしようという方から、着物生地は天然素材だから安心して着ることができると言ってもらえました。やっぱり昔からあるものって素晴らしいですね。美しいだけでなく、実用面でも優れている。着物の良さをあらためてお客様から教わりました。」

### 着物の輝きを広める

伝統に育まれた技術の結晶である着物が洋服に生まれ変わった時、大量生産の既製品にはないオンリーワンの新しい輝きを放ちます。

「すべての着物には命がある。少しでも多く世に出してあげて、たくさんの人に着てもらいたいです」そのためには生産コストを抑え、低価格を実現しなければなりません。

「長い間、全国の催事やオーダーを中心にしてきましたが、それでは時間もコストもかかってしまう。これからはインターネット販売に主軸を移し、よりたくさんの人に販売していきたいと考えています」



### 「裂き織」と出会って

着物リメイクを始めて数年後、「裂き織」という東北地方発祥の織物と出会いました。寒さが厳しく、綿や絹が貴重だった東北地方では、端切れを縫い合わせて着物にし、継ぎ当てをしながら大切に使い続けました。生地が古くなると、ほどこいて細長く裂き、麻糸などをたて糸にして生地を織り上げた、これが「裂き織」です。さらに使い古したらまた裂いて今度は組み紐にし、荷物の運搬などに使用。最後は火をつければ煙が農作業



裂き織のベストとコート

中の虫除けになり、灰は土に還り、裂き織には「物を大切に、最後まで使う」日本人の精神が表れています。

### 国や性別の枠を越えて

ところで、男性物は扱っていないのですか？ と尋ねると、早速カラフルな柄のシャツを着たご主人の暢之さんが登場。元は年代物の振袖というシャツは、「涼しくて着心地が良い。粋な感じが気に入っていますよ」と嬉しそうに笑います。

後藤さん夫妻は旅行が趣味で、クルーズ船で海外を周った時は船内で着物リメイクの洋服を着て過ごし、注目の的。

「海外では着物は大人しいデザインの服というイメージみたい。そんな華やかなデザインがあるのね！」と皆さん声をかけてくれました」

2年前にソフトビアジアパンの支援を受けてホームページを整備すると、海外からの問い合わせやオーダーが頻繁に入るようになりました。「海外の方の関心の高まりを感じています。近頃は岐阜市内でもたくさん外国人観光客を見かけますし、来年はいよいよ東京オリンピックの年。日本だけでなく海外にも着物生地の良さを広めたいですね」



### お客様の声がやりに



デザインどおりの仕上がり

後藤さんのもとには、購入者からの感謝の手紙や写